

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果  
概要と指導の改善策



令和元年12月10日  
旭川市立愛宕中学校

## ○ 調査結果の分析に当たって

本年4月18日に実施しました「平成31年度全国学力・学習状況調査」について、この度、本校の結果の概要と改善策をまとめました。

結果の分析に当たっては、国立教育政策研究所が作成した解説資料等を参考にしながら、旭川市教育委員会の本調査結果の公表についての考え方を踏まえ、次のとおりといたしました。

### ■教科に関する調査の結果分析

- 学校としての平均正答率が80%以上のものを「成果」，  
// // 60%以上80%未満のものを「おおむね達成」，  
// // 60%未満のものを「課題」として整理。
- 課題の中から特に平均正答率が低く指導の改善が必要であるものを抽出し、その出題の趣旨から生徒に身に付けさせなければならない力を分析。  
具体的な授業場面における改善方策を明示。

### ■生徒質問紙調査の結果分析

- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が80%以上のものを「肯定的な回答が高い割合を示した質問項目」，
- 質問項目に「している」「どちらかといえばしている」など、肯定的な回答をした生徒の割合が60%未満のものを「肯定的な回答が低い割合を示した質問項目」として整理。

## ■教科に関する調査の結果分析

## 国語

<国語 出題の趣旨等及び成果と課題>

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1三 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつ
- 2一 話合いの話題や方向を捉える
- 3一 書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する
- 4 語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 1二 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- 2一 相手に分かりやすく伝わる表現について理解する
- 2三 話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ
- 3二 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

- 1四 封筒の書き方を理解して書く

◎課題が見られた設問について

1四（正答率 54.9%）

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項  
(2)ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書く。

【指導の改善に向けて】

- ・総合的な学習の時間等と教科横断的に扱い、お礼状等の各場面で指導を行う。

<数学A 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

7 (1) 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

1 数の集合と四則計算の可能性について理解している

2 簡単な連立二元一次方程式を解くことができる

3 平行移動の意味を理解している

5 簡単な場合について、確率を求めることができる

7 (2) 反例の意味を理解している

9 (3) 総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

4 反比例の表から、 $x$  と  $y$  の関係を式で表すことができる

6 (1) グラフ上の点Pの  $y$  座標と点Qの  $y$  座標の差を、事象に即して解釈することができる

6 (2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

7 (3) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる

8 (1) 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる

8 (2) 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる

8 (3) 問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる

9 (1) 与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる

9 (2) 事柄が成り立つ理由を説明することができる

◎課題が見られた設問について

4 (正答率 54.1%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕C〕関数

(1) 具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、比例、反比例の関係についての理解を深めるとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を培う。

Ⅰ 比例、反比例を表、式、グラフなどで表し、それらの特徴を理解すること。



【指導の改善に向けて】

・表、式を関連付ける活動を取り入れ、反比例における比例定数や対応の特徴を捉え、 $x$  と  $y$  の関係を式で表すことができるように指導する。

・比例、反比例の特徴を見だし考察する際に、その比例、反比例の関係を表、式、グラフを用いて表現することができるように指導する。

◎課題が見られた設問について

6(1) (正答率 38.3%)

6(2) (正答率 36.1%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕C 関数

(1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。  
イ一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。  
エ一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。C 関数

【指導の改善に向けて】

- ・日常生活や社会の事象を考察する場面では、与えられた表から必要な情報を選択したり、グラフを事象に即して捉えたりして、数学的な結果を事象に即して解釈する活動を行う。その際、問題解決の方法を考え、それを数学的に説明できるようにする。
- ・具体的な場面において、事象を理想化したり、単純化したりして数学の問題として捉え、日常生活における問題を数学を活用して解決できるように指導する。

◎課題が見られた設問について

7(3) (正答率 45.1%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕B 図形

(2) 図形の合同について理解し図形についての見方を深めるとともに、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、論理的に考察し表現する能力を養う。  
ウ 三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を論理的に確かめたり、図形の性質の証明を読んで新たな性質を見いだしたりすること。

【指導の改善に向けて】

- ・与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導する

◎課題が見られた設問について

8(1) (正答率 48.9%)

8(2) (正答率 44.4%)

8(3) (正答率 48.9%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第1学年〕D 資料の活用

(1) 目的に応じて資料を収集し、コンピュータを用いたりするなどして表やグラフに整理し、代表値や資料の散らばりに着目してその資料の傾向を読み取ることができるようにする。  
ア ヒストグラムや代表値の必要性和意味を理解すること。

イ ヒストグラムや代表値を用いて資料の傾向をとらえ説明すること。

【指導の改善に向けて】

- ・目的に応じてデータを収集して整理し、データの傾向を読み取る活動を取り入れ、データの代表値を求めることができるよう指導する。
- ・代表値を求めたりデータの分布の様子を読み取ったりする場面を設定し、その傾向を捉えて、批判的に考察し判断できるように指導する。批判的に考察したりしながら、多面的に吟味し、よりよい解決や結論を見いだすことができるようにする。
- ・データの分布に着目して、その傾向を読み取って判断することができるように指導する。その際、日常生活を題材とした問題などを取り上げ、それを解決するために計画を立て、必要なデータを収集して処理し、データの傾向を捉え、その結果を基に批判的に考察し判断するという一連の活動を取り入れ、統計的に問題解決する活動を充実させる。

◎課題が見られた設問について

9(1) (正答率 54.1%)

9(2) (正答率 51.1%)

■学習指導要領における領域・内容

〔第2学年〕A 数と式

(1) 具体的な事象の中に数量の関係を見だし、それを文字を用いて式に表現したり式の意味を読み取ったりする能力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるようにする。

イ 文字を用いた式で数量及び数量の関係をとらえ説明できることを理解すること。

ウ 目的に応じて、簡単な式を変形すること。

【指導の改善に向けて】

・文字式を用いた説明を読む際には、説明すべき事柄に照らし合わせて式変形の目的を捉えることができるようにする。さらに、成り立つと予想した事柄について説明する際に、説明すべき事柄について、どのような式で表現すればよいかを考えるなどの見通しをもって取り組むことで、式変形の目的を捉えることができるようにする。

・事柄が一般的に成り立つ理由を、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにして説明できるように指導する。

<英語 出題の趣旨及び成果と課題>

【成果が見られた設問（平均正答率が80%以上のもの）】

- 1 (1) 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができる
- 1 (2) 教室英語を理解して、情報を正確に聞き取ることができる
- 3 まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる

【おおむね達成していた設問（平均正答率が60%以上80%未満のもの）】

- 1 (3) 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる
- 1 (4) 日常的な話題について、情報を正確に聞き取ることができる
- 2 まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる
- 5 (1) 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる
- 5 (2) 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる
- 5 (3) 日常的な話題について、簡単な文で書かれたものの内容を、正確に読み取ることができる
- 6 まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解することができる
- 9 (1) ① 文の中で適切に接続詞を用いることができる
- 9 (1) ② 文の中で適切に接続詞を用いることができる
- 9 (2) ① 一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くことができる

【課題が見られた設問（平均正答率が60%未満のもの）】

- 4 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる
- 7 まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することができる
- 8 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる
- 9 (2) ② 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる
- 9 (3) ① 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる
- 9 (3) ② 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる
- 9 (3) ③ 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる
- 10 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる

◎課題が見られた設問について

4 (正答率 15.8%)

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ア 聞くこと

- (ア) 強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく聞き取ること。
- (イ) 自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。

【指導の改善に向けて】



・数字や曜日、月などの発音の基本的な知識を身に付けて、お互いの誕生日を聞いたり、行事について話し合ったりする活動を行う。

・一日の行動や旅行の計画などを聞き、before A, after B 等の時間的な順番を表す句を正しくとらえ、時間の前後関係を理解する活動を行う。

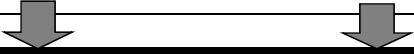
これらの活動を、機会をとらえて日頃の授業の中で繰り返し行っていくよう指導していく。

◎課題が見られた設問について

7 (正答率 29.3%)

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと  
 (ウ) 物語のあらすじや説明文の大切な部分などを正確に読み取ること。



【指導の改善に向けて】

・教科書や他の題材を用いた、以下のような手順の言語活動が考えられる。

- ① 全体のおおまかな内容をとらえる
- ② 各段落の最も大切な内容を表す英文を選ぶ
- ③ それらを比較するなどして、文章の最も大切な部分について意見交換をする

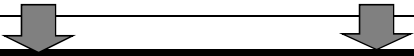
活動を行う際には、日常的话题にとどまらず、社会的な話題（自然環境問題や平和問題など）についての題材も積極的に扱っていくようにする。

◎課題が見られた設問について

8 (正答率 8.3%)

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 ウ 読むこと  
 (ウ) 話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること。



【指導の改善に向けて】

具体的な指導としては、以下のような手順の言語活動が考えられる。

- ① 教科書等に取り上げられている環境問題などに関する説明文を読み、書き手の主張を数文でまとめる
- ② 話題になっている問題に対して、自分ができることなどについてペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする
- ③ 活動の合間に、自分の使った英語を振り返り、表現の正確さを高める
- ④ ペアやグループで伝え合ったことを、最終的な自分の意見として簡潔に書いてまとめる

◎課題が見られた設問について

9 (2) ② (正答率 24.1%)

9 (3) ① (正答率 51.9%)

9 (3) ② (正答率 20.3%)

9 (3) ③ (正答率 45.9%)

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 Ⅰ 書くこと

- (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。
- (イ) 語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。

【指導の改善に向けて】

・一文のみを示して空欄の動詞の形を変えさせるのではなく、対話や文章の流れからふさわしい文の形式や時制を考えさせる活動などを行わせる。その際、確実な定着を図るために、ある程度の分量の練習をさせる練習問題形式などに取り組みさせる。

具体的な指導としては、次のような活動が考えられる。

- ・憧れの人物や友達紹介など、3人称を扱った言語材料を聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動を行わせる。
- ・生徒同士で書いたものを互いに読み合い、誤りに気づき、修正を加える活動を⑦積極的に行う。
- ・「ローマ出身です。」のように、日本語では省略される傾向にある主語が何であるかを考える活動を授業に取り入れる。
- ・「誰が？どうするの？どこに？」のような教師の発問を通して、英文を書く際に基本的な文や文構造を確認する活動を増やす。

◎課題が見られた設問について

10 (正答率 2.3%)

■学習指導要領における領域・内容

言語活動 Ⅰ 書くこと

- (カ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。

【指導の改善に向けて】

具体的な指導としては、以下の4点が考えられる。

・まとまりのある文章を書くことの指導の際には、ただ書く（文字化する）ことだけを取り上げるのではなく、事前活動や事後活動と併せて一連のプロセスとして指導するようする。事前活動では、「ペアでやり取りして話したことを書く」や「読んだことについて感想や意見などを書く」など、複数の領域を統合させることで書く内容を増やしたりまとめたりするよう指導する。具体的には、書く前の指導として、予備知識を活性化させるために、あるテーマについて生徒同士がやり取りをしたり、テーマに関連する短い読み物を読んだりした上で、自分の考えや気持ちを整理して書く言語活動を行わせる。

- ・書いた後の言語活動としては、相手に正しく伝わる文章になっているか、生徒自身が読み直して誤りに気づき、修正を加えながら正確さを高める活動や、生徒同士で書いたものを読み合い、内容に

ついて質問をしたり、伝え方についてコメントを述べたりして、やり取りした内容を参考に推敲する活動などを行う。

・書くことが苦手な分量のある英文を書くことができない生徒には、なぜ書けないのか、何につまずいているのかを教師が把握し、何をどのように書けばよいか、内容、文章構成、語彙や表現の面で手立てを考える。まず、内容面では、書く前にウェビングを使うなどしてアイデアを出したり、自分の考えや気持ちをペアやグループで伝え合ったりする中で、書く内容を明確にしていく活動を行う。次に、文章構成の面では、まとまりのある英文を書くときのステップチャートを示したり、テンプレートを用いて書きやすくしたりする。また、ゼロから書くのではなく、教科書のモデル文を参考にし、一部分を自分のことに変えることでオリジナルの文に書き換えるような活動を行い、書くことに慣れさせていく活動も取り入れていく。語彙の面では、テーマに関する語彙を示して書きやすくしたり、辞書の使用を促したりする指導を行う。また、表現の面では、意見を述べる表現などジャンルに応じてよく使われるものを教える必要がある。

・語の場合には、伝える内容が豊富になるだけでなく、主語の数に応じて動詞の形を変化させる場合や主語に適した動詞を選ぶ必要がある場合など、英語の文、文構造や文法を的確に活用させる力をつける。書くことの指導において、1人称や2人称 (I, You) を用いて自分や相手の気持ちや考えを表現することだけでなく、3人称 (He, She, It, There, 無生物主語など) を用いて客観的に事実を伝える力を養わせる。調べたいことについて説明や報告をしたり、絵や写真の様子を表現したりするような言語活動を通して指導を行う。

## ■生徒質問紙調査の結果分析

【肯定的な回答が高い割合を示した質問項目（先頭は質問項目の番号を示す）】

- 1 朝食を毎日食べていますか
- 3 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
- 7 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか
- 9 ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
- 11 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか
- 13 学校の規則を守っていますか
- 15 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
- 16 人の役に立つ人間になりたいと思いますか
- 39 1, 2年生のときに受けた道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか
- 41 国語の勉強は大切だと思いますか
- 43 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 53 今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたか、どのように解答しましたか
- 55 英語の勉強は大切だと思いますか
- 57 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか
- 60 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか
- 61 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか
- 64 1, 2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか
- 65 1, 2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか

【肯定的な回答が低い割合を示した質問項目】

- 5 自分には、よいところがあると思いますか
- 10 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか
- 17 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか
- 22 新聞を読んでいますか
- 23 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- 24 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか
- 25 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知りたいと思いたいですか
- 26 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか
- 30 1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか
- 33 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか
- 34 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか
- 36 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思いますか
- 38 1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか
- 40 国語の勉強は好きですか
- 44 国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしていますか
- 46 国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫していますか
- 49 数学の勉強は好きですか
- 54 英語の勉強は好きですか
- 56 英語の授業はよく分かりますか

- 58 あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会（地域の人や海外にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど）が十分にありましたか
- 59 あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いませんか

【その他】

- 18 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む）
  - 2時間以上 31.6%（全国平均は35.6%）
  - 全くしない 16.5%（全国平均は12.2%）
- 19 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
  - 10分以上 40.6%（全国平均は50.5%）
- 20 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか
  - 図書館等に本を借りに行く頻度週1回以上 9.8%（全国平均は8.4%）

※北海道教育委員会が目安として示している平日の家庭学習時間は中学校3年生で100分以上、読書をする時間を10分以上としている。

以下は、旭川市教育委員会が推進する学力向上策である「授業改善」、「落ち着いた学習環境づくり」、「望ましい習慣づくり」の3つのカテゴリーと、関連する生徒質問紙調査の質問番号の一覧です（国立教育政策研究所では、質問番号を8つに分類）。

カテゴリー	国立教育政策研究所の分類	質問番号
授業改善	1：主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	(32) (33▼) (34▼) (35) (36▼) (37) (38▼) (O39)
	2：学習に対する興味・関心や授業の理解度等（国語）	(40) (O41) (42) (O43) (44▼) (45) (46▼) (47) (48)
	3：学習に対する興味・関心や授業の理解度等（数学）	(49▼) (50) (51) (52) (O53)
	4：学習に対する興味・関心や授業の理解度等（英語）	(54▼) (55O) (56▼) (O57) (▼58) (59▼) (O60) (O61) (62) (63) (O64) (O65) (66)
	5：ICTを活用した学習状況	(30▼) (31)
落ち着いた学習環境づくり	6：規範意識、自己有用感、挑戦心、達成感等	(5▼) (6) (O7) (8) (O9) (10▼) (O11) (12) (O13) (14) (O15) (O16)
望ましい習慣づくり	7：学習習慣等	(17▼) (18) (19) (20) (21) (22▼)
	8：基本的生活習慣等	(O1) (2) (O3) (4)

※ 質問番号の前の○は肯定的な回答が高い割合を示した質問項目、▼は肯定的な回答が低い割合を示した質問項目を示す。

○上記の3つのカテゴリーに当てはまらない質問項目

その他	9：地域や社会に関わる活動の状況等	(23) (24) (25) (26)
	10：各教科の調査時間の適切性	(67) (68) (69)
	11：部活動に関する状況	(27) (28) (29)

27

■生徒質問紙調査の結果から

生徒質問紙調査の結果から、朝食を毎日食べたり、毎日同じくらいの時刻に起きたりするなどの習慣は身に付いており、家で学校の宿題にも取り組んでいる様子が見えます。また、人の役に立つ人間になりたいと思うなど、将来への前向きな意識をもつとともに、学校の規則を守り、さらには、いじめはどんな理由があってもいけないと思うなど、規範意識や人を思いやる心が育っている様子が見えます。

一方、それぞれの教科が、社会に出て必要であるという意義について理解しているが、計画的に学習するなど先を見通した学習ができないことが問題となっている。

## ■学力向上に向けた今後の取組



## ■学力向上に向けた今後の取組

これらの調査結果に基づき、国語科、数学科、英語科においては、学力調査を受けた第3学年の生徒に対し、十分に身に付いていないと思われる学習内容について、学校全体で話し合いを持ち、日常の授業を通じて、再度指導を行ってきました。

また、今年度の生徒質問紙調査の結果から見られた課題は、昨年度の調査結果と質問項目が一部変更になり、昨年度との比較が単純にできませんが、過去2年間において取り組んできた、話し合い活動の重視が成果となってあらわれていました。しかし、計画的に学習できないなど新たな課題も見付き、全校で行っている質問紙調査からも、同様の傾向が見られるので、本校の生徒全体の課題として捉え、その改善に向けて全校的に取り組む必要があると考えています。

こうしたことから、本校では、学力向上に向け、次の取組を行ってまいります。

### 1 「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業づくり

本校では、研究主題「学ぶ意欲を高め、確かな学力の育成を目指した学習指導の在り方～主体的、対話的で深い学びを通して～」の下、生徒の学びへの必要感を高める学習内容や生徒同士の「学び合い」などの協同的な学習の形態、生徒の学びを確実なものにする学習方法の工夫を行うなど、指導方法の改善に努めています（3年次研究の2年目）。具体的には、今年度については、各教科で1つの研究授業を公開し、研究主題に基づく教科部会での話し合いや中間反省を行い、修正を行うなど学力の向上に向けて授業を充実させます。また、11月中旬には、旭川市教育委員会の専門職員（指導主事）を招聘し、各教科ごとに指導・助言を受けることにより、本校の取組の成果と課題を明らかにしながら、日々の授業の一層の改善・充実に努めてまいります。

### 2 落ち着いた学習環境づくり

学校において、生徒が安心して授業に臨み学習内容を確実に身につけることができるようにするためには、規律を定着させ落ち着いた雰囲気の中で学ぶことができる環境を整えることが大切です。そのために、本校では、朝読書の定着に重点を置き、朝の短学活前の10分間読書を行い、落ち着いた雰囲気の中で学習をスタートさせることを行ってきました。結果、読書への関心が高まり、図書館の利用者数の増加につながっています。さらに、読書を通じて、読解力の向上へとつなげていきます。

今後も、適切な学習環境作りの確立に努めるとともに、学級経営を重視し、学級活動や学校行事等の特別活動を通じて、互いのよさや違いを認め合う望ましい集団づくりに努めてまいります。

### 3 基本的な生活習慣（学習習慣を含む）の確立

学力の向上はもとより、生徒がこれからの社会で生き抜いていくためには、健康や体力の向上も必要不可欠な要素です。その実現に向けては、規則正しい生活習慣や計画的な学習習慣を身に付けることが大切です。しかしながら、本校生徒については、計画的に学習する習慣が身につけておらず、課題が見られることから、その改善を粘り強く行っていくことが必要とされます。生活習慣や学習習慣は、一定の時間をかけて形成されていくことや、一度習慣化されたことを変えることは容易ではないことから、その改善のためには、家庭や校区小学校との緊密な連携と、9年間を見通した指導が必要であると考えます。

現在、本校では各学年において、生徒の実態を踏まえ、基本的な生活習慣（学習習慣）づくりのための、年2回の普段の生活リズムを調査し、教育相談にて改善を行うなど具体的な取組を進めてきており、今後、成果・課題の検証と取組の一層の充実に努めてまいります。

また、校区の愛宕小学校及び愛宕東小学校とは、定期的に学校課題について情報共有する機会をもちますが、今後、本校区の児童・生徒の生活習慣（学習習慣）や計画的な学習における課題の改善に向けて、9年間を見通した一貫・連携した指導の在り方について検討し、校区小学校との具体的な取組を進めてまいります。

